

楠木塚遺跡

畑地帯総合整備事業における埋蔵文化財発掘調査報告書(9)

2022年3月

宮崎県西諸県郡
高原町教育委員会

序 文

本書は、「県営畑地帯総合整備事業（担手支援）」に伴い、宮崎県西諸県農林振興局から委託を受け、高原町教育委員会が行った楠木塚遺跡発掘調査の調査報告書です。

高原町は霊峰高千穂峰をいただく、神話と歴史に溢れた町です。特に「高原」という地名は、「高天原」から転化したと言われており、町内各所に神話にまつわる地名が残されています。高原町は初代天皇である神武天皇の御降誕地であり、また若年期に過ごされたという伝承をもつ場所としても名高い町であります。

高原町教育委員会では、畑地帯総合整備事業に先立つ埋蔵文化財発掘調査を平成27年度から実施しており、令和元年度に実施したこの楠木塚遺跡の調査においては、縄文時代早期の遺物・遺構が中心に見つかっています。

今回の調査で得た様々な成果が、学術資料としてだけでなく、学校教育や生涯学習の場で活用され、埋蔵文化財の保護に対する認識と理解の一助になることを期待しています。

最後になりますが、この発掘調査及び整理作業にあたり、多大なる御理解と御協力をいただきました、土地所有者の方や周辺住民の方々をはじめ、御指導・御援助をいただきました関係諸機関の方々に心から御礼を申し上げます。

令和4年3月

高原町教育委員会
教育長 西田 次良

例 言

- 1 本報告書は、令和元年度に実施した後川内地区における平成30年度畑地帯総合整備事業（担手育成）に伴う楠木塚遺跡発掘調査報告書である。
- 2 当遺跡は宮崎県西諸県郡高原町大字後川内字楠木塚に所在する。
- 3 当遺跡の発掘調査及び報告書作成のための整理作業、執筆については宮崎県西諸県農林振興局農村整備課の委託を受けて、高原町教育委員会が主体となって実施した。
- 4 当遺跡の発掘調査については、宮崎県教育委員会文化財課の指導・助言を受けて、高原町教育委員会教育総務課社会教育係の玉谷鮎美及び発掘調査員の竹中美智子が担当した。発掘調査は令和元年6月12日から令和2年3月30日まで実施した。
- 5 現場における遺構実測は調査員及び作業員が行った。なお、遺構実測図の一部を有限会社ジパング・サーベイに委託した。
- 6 遺物の整理、実測図作成、トレースについては、調査員、調査補助員、作業員が整理作業室にて行った。遺物の実測図作成及びトレースの一部を有限会社ジパング・サーベイに委託した。
- 7 本報告書で使用した遺物、遺構の写真撮影は玉谷、竹中で行い、空中写真については九州航空株式会社に委託した。
- 8 本報告書で使用した出土炭化物の放射線炭素年代測定、樹種同定、種実同定、およびテフラ分析は株式会社古環境研究所に委託した。
- 9 本報告書で用いた標高は海拔高であり、方位はすべて真北である。
- 10 本報告書で使用した遺構記号は以下の通りである。
SI…集石遺構 SC…土坑 P…ピット
- 11 本報告書の執筆・編集は玉谷が行った。
- 12 発掘調査に伴って出土遺物とすべての記録については、高原町教育委員会にて保管している。
- 13 発掘調査および報告書作成においては下記の方々に御指導、御助言いただきました。記して御礼申し上げます。
秋成雅博、柴畑光博、松本 茂、吉本正典（50音順）

本文目次

第1章 序説	1
第1節 調査に至る経緯	1
第2節 調査組織	2
第3節 遺跡の立地と環境	3
第4節 調査の概要及び経過	3
第5節 遺跡の層序	6
第2章 アカホヤ火山灰下位の調査	8
第1節 遺物、遺構の分布状況	8
第2節 遺構について	8
第3節 遺物について	24
第3章 アカホヤ火山灰上位の調査	36
第1節 遺物、遺構の分布状況	36
第2節 遺構について	36
第4章 自然科学分析	39
第5章 まとめ	62

挿図目次

図1	周辺遺跡分布図	4
図2	調査地位置図	4
図3	グリッド配置図	5
図4	基本層序	6
図5	調査区土層断面図	7
図6	アカホヤ火山灰下位遺構配置図	9
図7	アカホヤ火山灰下位検出 S1 実測図①	10
図8	アカホヤ火山灰下位検出 S1 実測図②	11
図9	アカホヤ火山灰下位検出 S1 実測図③	12
図10	アカホヤ火山灰下位検出 S1 実測図④	13
図11	アカホヤ火山灰下位検出 S1 実測図⑤	14
図12	アカホヤ火山灰下位検出 S1 実測図⑥	15
図13	アカホヤ火山灰下位検出 S1 実測図⑦	16
図14	アカホヤ火山灰下位検出 S1 実測図⑧	17
図15	アカホヤ火山灰下位検出 S1 実測図⑨	18
図16	アカホヤ火山灰下位検出 SC 実測図①	19
図17	アカホヤ火山灰下位検出 SC 実測図②	20
図18	アカホヤ火山灰下位検出 SC 実測図③	21
図19	アカホヤ火山灰下位検出 SC 実測図④	22
図20	アカホヤ火山灰下位検出ピット実測図	23
図21	アカホヤ火山灰下位出土土器分布図	24
図22	アカホヤ火山灰下位出土土器実測図①	25
図23	アカホヤ火山灰下位出土土器実測図②	26
図24	アカホヤ火山灰下位出土土器実測図③	27
図25	アカホヤ火山灰下位出土土器実測図④	28
図26	アカホヤ火山灰下位出土土器実測図⑤	29
図27	アカホヤ火山灰下位出土土器実測図①	30
図28	アカホヤ火山灰下位出土土器実測図②	31
図29	アカホヤ火山灰下位出土土器実測図③	32
図30	アカホヤ火山灰下位出土土器実測図④	33
図31	アカホヤ火山灰上位遺構配置図	36
図32	アカホヤ火山灰上位検出 SC 実測図①	37
図33	アカホヤ火山灰上位検出 SC 実測図②及びP 実測図	38

表目次

表1	アカホヤ火山灰下位検出遺構内出土石器観察表	23
表2	アカホヤ火山灰下位包含層出土石器観察表	34
表3	アカホヤ火山灰下位包含層出土石器観察表	35

図版目次

図版1	調査区空中写真	63
図版2	調査区土層写真	64
図版3	アカホヤ火山灰下位遺構写真①	65
図版4	アカホヤ火山灰下位遺構写真②	66
図版5	アカホヤ火山灰下位遺構写真③	67
図版6	アカホヤ火山灰下位包含層出土遺物写真①	68
図版7	アカホヤ火山灰下位包含層出土遺物写真②	69
図版8	アカホヤ火山灰下位包含層出土遺物写真③	70
図版9	アカホヤ火山灰下位包含層出土遺物写真④	71
図版10	アカホヤ火山灰下位包含層出土遺物写真⑤	72
図版11	アカホヤ火山灰下位包含層出土遺物写真⑥	73
図版12	アカホヤ火山灰上位遺構・遺物写真	74
図版13	調査状況等写真	75

第1章 序説

第1節 調査に至る経緯

宮崎県西諸県郡高原町大字後川内では、平成25年度に後川内1期地区楠木塚団地畑地帯総合整備（担手支援）事業が採択された。工事に伴い宮崎県文化財課は宮崎県西諸県農林振興局から文化財の所在の有無について照会を受けた。対象地は周知の埋蔵文化財包蔵地には含まれていなかったが、県文化財課が一带の試掘調査を実施したところ、事業実施計画によって切土となる範囲が未周知の埋蔵文化財包蔵地であり、発掘調査が必要であることが分かった。

その結果を受け、西諸県農林振興局、宮崎県文化財課、高原町農政畜産課、高原町教育委員会で協議を行い、令和元年度には事業実施計画によって切土となり削平される新規遺跡「楠木塚遺跡」の約5,000㎡について記録保存のための発掘調査を実施した。調査期間は令和元年6月12日から令和2年3月30日までである。

第2節 調査組織

調査組織については下記の通りである。

平成31年/令和元年度（整理作業）

調査主体者 宮崎県高原町教育委員会

教育長 西田次良

教育総務課長 水町洋明

社会教育係長 江田雅宏

社会教育係 主任主事 中別府宏貴（庶務担当）

主事 瀬戸口洋介（庶務担当）

調査担当者 社会教育係 主任主事 玉谷鮎美

社会教育係 非常勤職員（発掘調査員） 竹中美智子

調査補助員 田中祐紀 福田 稔

発掘作業員	安藤 護	飯田千代子	池崎良夫	池田信子	石ヶ野敏郎	入木松男
	内村絹代	大田滝子	岡崎順子	岡原 弘	奥 喜代司	勝吉末雄
	上村勝雄	上村恭子	久徳利雄	窪田貴代子	黒木和美	下村富貴子
	正入木政喜	鈴木睦子	関田克己	瀬戸口長経	平良 廣	
	竹之下民子	田崎広海	谷山龍人	鶴田孝徳	寺師時信	泊 かよ子
	永田輝昭	那須町子	鳴海フヂエ	橋口廣海	原田賢雄	眞方幸雄
	松本タケ子	丸山修平	村山保夫	安岡健二	柳 桂子	山崎啓子
	山下浩美	山田町子	山室つゆ子	湯舟玲子	吉村 繁	
整理作業員	荒殿ミュキ	今西公実	梅本かよ子	瀬戸山美子	福田 稔	

令和2年度（整理作業）

調査主体者 宮崎県高原町教育委員会

教育長 西田次良

教育総務課長 末永恵治

教育総務課 課長補佐兼社会教育係長 江田雅宏

社会教育係 主任主事 中別府宏貴（庶務担当）
調査担当者 社会教育係 主査 玉谷鮎美
調査補助員 福田 稔
整理作業員 荒殿ミユキ 今西公実 梅本かよ子 瀬戸山美子 矢野秀城

令和3年度（整理作業）

調査主体者 宮崎県高原町教育委員会
教育長 西田次良
教育総務課長 末永恵治
教育総務課 文化財係長 山下浩樹
文化財係 主査 玉谷鮎美（庶務担当）
調査担当者 文化財係 主査 玉谷鮎美

調査指導 藤木 聡（宮崎県文化財課）

調査協力 事業側 宮崎県西諸県郡農林振興局
農村整備課 農村整備担当 主査 上坂大輔（令和元年度）
主査 蛭原稔文（令和2・3年度）
高原町農畜産振興課（令和元・2年度）
課長 田中博幸（令和元・2年度）
農村整備係長 増田仁志（令和元年度）
田中伸一郎（令和2年度）
農村整備係 主査 下村健一（令和元・2年度）
主査 東 一樹（令和3年度）

地権者 岡元昭博

地域協力 若松初男 西村正人

第3節 遺跡の立地と環境

高原町は宮崎県の南西部に位置し、小林市、都城市、鹿児島県霧島市に隣接している。東西約18km、南北約10kmと東西に長く、面積は85.39km²であり、韓国岳（標高1,700m）、新燃岳（1,421m）、中岳（1,332m）、高千穂峰（1,574m）等を中心とする霧島火山群の東麓にある。高原町の台地は火山灰により形成されたシラス台地上にある。シラスは約29,000年前に現在の鹿児島県の錦江湾付近（始良カルデラ）から噴出した火山灰で「始良丹沢（AT）火山灰」「始良大隅軽石」「入戸火砕流堆積物」等で構成されており、その堆積は厚いところでは約20mにもなる。さらにその後も、霧島火山群から多種の火山灰が噴出し、霧島小林軽石、牛のすねローム下部、鬼界アカホヤ火山灰、牛のすねローム上部、御池軽石、高原スコリア（霧島大谷4～6テフラ）等が降下しており、高原町を覆っている。これらの火山灰は地層の年代を特定するための鍵層となっている。

遺跡周辺も入戸火砕流が堆積した台地上に立地しており、南側には炭床川が流れている。調査区の東側は住宅地、西側は畑になっており、造成による削平を受けている。北側は竹林で、調査区よりやや高い標高であり、この部分については造成前の旧地形をある程度残していると推測される。今回調査を実施した調査地も、畑地になっており、造成により、アカホヤ火山灰上位層はほとんどが削平を受け残存していなかった。アカホヤ火山灰下位層は良好に残存しており、当該層を中心に調査を実施した。

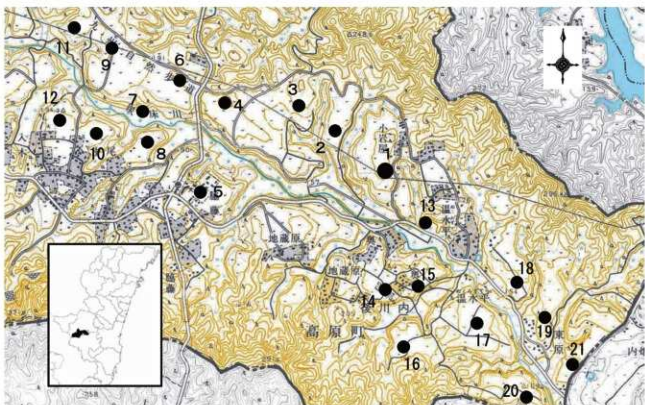
遺跡周辺には多くの遺跡が存在し、立切地下式横穴墓群、川除遺跡、川路山遺跡、井ノ原遺跡で発掘調査が行われた。後川内小学校屋内運動場建設に伴い調査された川除遺跡は、古代の畝状遺構等が見つかっている。縄文時代の遺物も少量ではあるが見つかっており、姫島産黒曜石やチャートの石鏃、轟B式土器が出土している。また川路山遺跡では塞ノ神式土器を中心とした土器が出土しており、集石遺構等が検出された。井ノ原遺跡では平桁式土器を中心とした土器や異形石器が出土し、竪穴遺構、集石遺構等が検出された。

第4節 調査の概要及び経過

工事設計により、アカホヤ火山灰下位まで工事削平されることとなっていたため、発掘調査はアカホヤ火山灰の上位と下位で実施した。調査の経過は6月12日から重機作業を実施し、アカホヤ火山灰上位の調査を令和元年7月18日から8月29日まで実施した。当面については削平及び耕作時のトレンチャーで、遺物包含層残存範囲が調査区際から幅2mほどと狭小であったため、重機で慎重に掘り下げながら、遺物採取、遺構検出を実施した。精査と併行して、精査が完了した調査区中央付近からアカホヤ火山灰の除去を行った。アカホヤ火山灰下位の遺物包含層については調査区全面に残存していたため、令和元年7月31日から令和2年3月30日にかけて調査を実施した。7～11グリッドから調査を実施し、続いて1～6グリッドと11～14グリッドの調査を併行して実施した。また令和2年1月28日に生涯学習講座を実施した。

調査の結果、アカホヤ火山灰上位層では、土坑3基とピット1基、アカホヤ火山灰下位層では集石遺構14基、陥し穴状遺構3基、土坑1基、ピット8基を検出した。主な出土土器は、成川式土器、縄文土器では前平式、下剝峰式、塞ノ神式である。主な出土土器は鏃である。

調査における写真撮影については35mmモノクロリバーサルフィルム、NIKON D850で撮影を行った。



- 1 楠本塚道跡 2 赤木八重道跡 3 井ノ原道跡 4 川路山道跡 5 川除道跡 6 轟道跡 7 向原第1道跡 8 宮ノ谷道跡
 9 立切地下式横穴墓群 10 向原第2道跡 11 立切第1道跡 12 向原第3道跡 13 温木第2道跡 14 奥城跡 15 温木第1道跡
 16 久保田第2道跡 17 久保田第1道跡 18 東平道跡 19 東原道跡 20 土橋道跡 21 吉牟田道跡

第1図 周辺道跡分布図



第2図 調査地位置図

第5節 遺跡の層序

楠木塚遺跡では、アカホヤ火山灰より上の層は削平によりほとんど残っていないが、調査区内で最も地層が連続して残っている箇所を基本層序（第4図）とした。

I 黒褐色粘質土で表土（耕作土）にあたる。IIにぶい黄褐色シルト質土で20mm以下のぶい黄褐色軽石、3mm以下の黒色軽石を多く含む、高原スコリアに当たる。III～Vは黒褐色シルト質土でIIIはしまりが緩く、縄文時代前期以降の遺物包含層である。VIは黄褐色シルト質土で、VII暗灰黄シルト質土で牛のすね火山灰下部層である。VIIIは黄褐色シルト質土でアカホヤ火山灰層、IXは灰黄褐色シルト質土に黄褐色軽石を多く含むアカホヤ火山灰豆石層である。Xは褐色シルト質土で牛のすね火山灰下部層である。XIは黒色シルト質土でかたく絞まりがある層である。XIIからXIVは、黒褐色粘質土でXIIは黄褐色、橙色軽石を多く含む。XVは暗褐色粘質土でXVIはにぶい黄褐色粘質土である。XVII黄褐色粘質土で橙色、黄褐色軽石を少量含む、粘性がやや高い。XVIIIにぶい黄褐色シルト質土15mm以下の黄褐色軽石、1mm以下の白色粒を多く含む。XIX黄褐色シルト質土30mm以下の黄褐色軽石や1mm以下の白色粒、2mm以下の白色砂粒を多量に含む、固く絞まる。XXからXXIIは黄褐色砂質土と灰黄褐色砂質土で小林軽石層である。XXIIIにぶい黄褐色粘質土で黄褐色軽石と黄褐色軽石を少量含む。XXIVは明黄褐色粘質土で黄褐色軽石を少量含む。褐色の斑点があり、粘性が強い。調査はVI層上での遺構検出と、XII～XIV層の遺物包含層調査、遺構検出を行った。

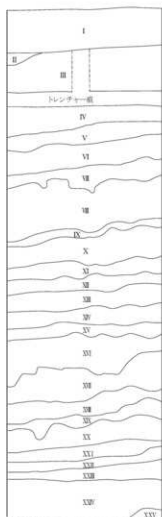
197.00m

196.00m

195.00m

194.00m

193.00m

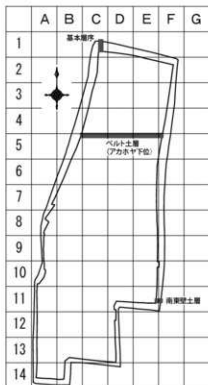
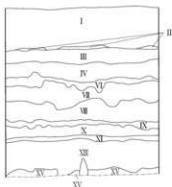


- I 黒褐色粘質土 (2.5VZ1/1) 10 mm以下の白色、褐色砂粒を多く含む。
- II にぶい黄褐色シルト質土 (10VZ1/4) 20 mm以下のぶい黄褐色軽石、3 mm以下の黒色軽石を多く含む、しまりがある。
- III 黒褐色シルト質土 (10VZ2/1) 3 mm以下の白色粒を含む、しまりがある。
- IV 黒褐色シルト質土 (10VZ2/1) 3 mm以下の褐色軽石を含む、1 mm以下の白色粒を含む。
- V 黒褐色シルト質土 (10VZ3/2) 3 mm以下の褐色軽石を含む、1 mm以下の白色粒を含む、しまりがある。
- VI 黄褐色シルト質土 (15VZ2/4) 15 mm以下の褐色軽石を多く含む、しまりがある。
- VII 暗灰黄シルト質土 (2.5VZ5/2) 10 mm以下の褐色軽石を含む、1 mm以下の白色粒を含む、かたくなる。
- VIII 黄褐色シルト質土 (10VZ3/8) 黄褐色に、ややしまりがある。
- IX 灰黄褐色シルト質土 (10VZ4/2) 黄褐色軽石 (7カホヤ火山灰豆石 15 mm以下) を多く含む、かたくなる。
- X 褐色シルト質土 (10VZ5/1) 2 mm以下の褐色軽石、1 mm以下の白色粒を多く含む、かたくなる。
- XI 黒色シルト質土 (10VZ2/1) 1 mm以下の白色粒を含む、かたくなる。
- XII 黒褐色粘質土 (10VZ2/1) 8 mm以下の黄褐色、褐色軽石を多く含む、1 mm以下の白色粒を多く含む、白色粒を多く含む、しまりがある。
- XIII 黒褐色粘質土 (10VZ2/1) 10 mm以下の黄褐色、褐色軽石を多く含む、1 mm以下の白色粒を多く含む、白色粒を多く含む、しまりがある。
- XIV 黒褐色粘質土 (10VZ2/1) 8 mm以下の黄褐色、褐色軽石を多く含む、1 mm以下の白色粒を多く含む、白色粒を多く含む、しまりがある。
- XV 暗褐色粘質土 (10VZ3/2) 10 mm以下の黄褐色、軽石を含む、3 mm以下の褐色軽石を含む、1 mm以下の白色粒を多く含む、ややしまりがある。
- XVI 暗褐色粘質土 (10VZ5/4) 3 mm以下の黄褐色軽石を少量含む、1 mm以下の白色粒を多く含む、ややしまりあり、粘性がやや高い。
- XVII 黄褐色粘質土 (10VZ5/4) 8 mm以下の褐色、黄褐色軽石を少量含む、1 mm以下の白色粒を多く含む、しまりがある。
- XVIII 黄褐色粘質土 (10VZ5/4) 30 mm以下の黄褐色軽石を多量に含む、しまりがある。
- XIX 黄褐色粘質土 (10VZ5/4) 5 mm以下の黄褐色軽石、1 mm以下の黒褐色砂粒を多量に含む、しまりがある。
- XX 黄褐色粘質土 (10VZ4/2) 8 mm以下の黄褐色軽石、1 mm以下の灰黄褐色砂粒、1 mm以下の白色砂粒を多く含む。
- XXI 灰黄褐色粘質土 (10VZ4/2) 20 mm以下の黄褐色軽石 1 mm以下の白色砂粒、3 mm以下の白色砂粒を多く含む。
- XXII にぶい黄褐色粘質土 (10VZ6/4) 15 mm以下の黄褐色軽石を多量に含む、1 mm以下の白色粒を多く含む、しまりがある。
- XXIII にぶい黄褐色粘質土 (10VZ6/4) 10 mm以下の黄褐色軽石を含む、5 mm以下の黄褐色軽石を少量含む、3 mm以下の灰白色砂粒を多く含む、しまり、粘性がある。
- XXIV 明黄褐色粘質土 (10VZ6/4) 3 mm以下の黄褐色軽石を少量含む、3 mm以下の灰白色砂粒を少量含む、しまりあり、褐色の斑点があり粘性がある。

第4図 基本層序 (S=1/30)

南東壁土層

0.1 m



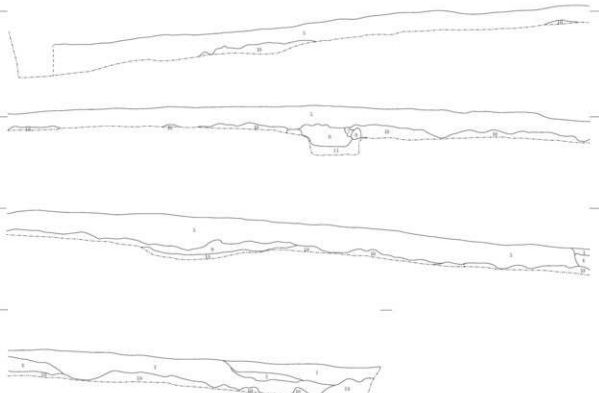
ベルト土層 (アカホヤ下位)

0.1 m

0.1 m

0.1 m

0.1 m



1. 黄褐色粘質土 (10V93/2) 10 mm以下の黄褐色、褐色軽石、1 mm以下の白色砂を多く含む、土厚約60。
2. 黄褐色粘質土 (10V93/2) 25 mm以下の黄褐色、褐色軽石、2 mm以下の灰白色砂粒、1 mm以下の白色砂を多く含む、褐色土コアの存在、土厚約60。
3. 黄褐色粘質土 (10V93/1) 8 mm以下の黄褐色軽石、褐色軽石、2 mm以下の灰白色砂粒、1 mm以下の白色砂を多く含む、土厚約60。
4. 黄褐色粘質土 (10V93/1) 8 mm以下の黄褐色軽石、褐色軽石、1 mm以下の白色砂を含む、土厚約60。
5. 黄褐色粘質土 (10V93/1) 10 mm以下の黄褐色軽石、褐色軽石を多く含む、2 mm以下の灰白色砂粒を含む、1 mm以下の白色砂を多く含む、土厚約60。

6. 黄褐色粘質土 (10V93/2) 8 mm以下の黄褐色軽石、褐色軽石を多く含む、2 mm以下の灰白色砂粒 (10V93/2) 1 mm以下の白色砂を多く含む、土厚約60。
7. 黄褐色粘質土 (10V92/1) 2 mm以下の黄褐色軽石を多く含む、土厚約60。
8. 土壌黄褐色粘質土 (10V93/2) 2 mm以下の灰白色砂粒を含む、土厚約60。
9. 黄褐色粘質土 (10V93/2) 3 mm以下の黄褐色軽石を含む、2 mm以下の灰白色砂粒、1 mm以下の白色砂を含む、灰褐色土コアの存在、土厚約60。
10. 土壌黄褐色粘質土 (10V94/2) 3 mm以下の褐色軽石を含む、2 mm以下の灰白色砂粒、1 mm以下の白色砂を含む、土厚約60。
11. 灰オリーブ色の粘土 (10V93/2) 10 mm以下の黄褐色軽石を含む、2 mm以下の灰白色砂粒を含む、土厚約60。

第5図 調査区土層断面図 (S=1/60)

第2章 アカホヤ火山灰下位の調査

第1節 遺物、遺構の分布状況

アカホヤ、牛のスネ火山灰下部より下層は、調査区の全面に残存していたため、約5,000㎡の調査を行った。Ⅻ～ⅩⅤ層が縄文時代早期の遺物包含層であり、遺物のほとんどはⅫ層とⅩⅤ層の最下部から出土した。遺構検出については包含層精査の途中で検出されたものを除き、ⅩⅤ層の上面で行った。

遺物の出土範囲は北から南西に延びる尾根沿いに集中しており、尾根から離れて斜面の傾斜が強くなると遺物の出土がなくなる。調査区全面を通じて、遺物出土地点はまばらだが、土器の型式や剥片の石材によって出土分布が偏っている傾向を確認した。また礫は遺構の周辺のみ多く出土した。出土している土器は、当地域の土器型式の、前平式、下剥峰式、塞ノ神式が出土している。石器についてはチャート、黒曜石製の剥片・石鏃が出土した。

遺構は土坑、陥し穴状遺構、集石遺構、ピットを検出した。集石遺構は数点の礫による小規模なもの、礫が周りに散布し遺構の中心が見えにくいものがほとんどであった。

第2節 遺構について

検出した遺構は、集石遺構14基、土坑4基、(内陥し穴状遺構3基)、ピット8基の計26基である。P11からP17については隣接する場所に位置するが、単体のピットと考えられる。

1 集石遺構

SI1

調査区外周の先行トレンチ掘削中に検出された。検出面では北東側の礫の残存が少ない。礫の分布は1.1m × 1.0m、掘り込みは1.1m × 1.1mである。検出面はⅫ層で、埋土は暗褐色土(8mm以下の黄褐色軽石を含む1mm以下の白色粒を多く含む)が主体で、掘り込みの底面付近のみ黒色土であった。埋土中から出土した炭化材の放射性炭素年代測定分析を行ったところ、7701 ± 32BPの結果が出ている(第3章Ⅱ、試料1)

SI2

包含層精査中に検出している。小規模な礫の密集で磨石の破片を一部使用している。

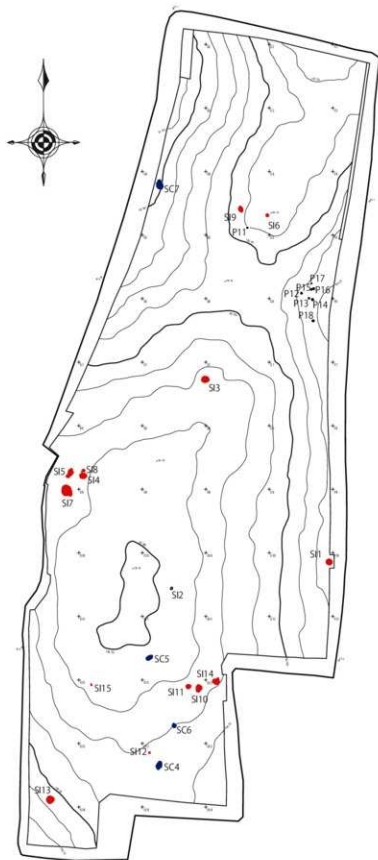
平面図を作成後、平面を精査したが、掘り込みは持たない。検出面は暗褐色土で、8mm以下の黄褐色軽石と1mm以下の白色粒を多く含む。礫下の土は一部明褐色土ブロックを含む黒色土で、炭化物を少量含んでいた。

SI3

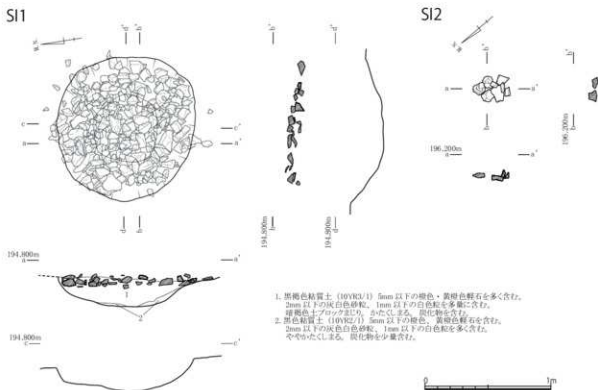
包含層精査中、礫が8mほどの範囲で集中して出土したため、精査したところ、掘り込みの範囲を検出した。掘り込み中にはほとんど礫は残っておらず、礫の取り外し後に廃棄された集石遺構と考えられる。掘り込みの規模は1.47m × 1.2mである。掘り込みの西側にやや礫が密集していた。

SI4

包含層精査中に、A-9グリッド周辺で礫が集中して出土したため、検出した。SI8と切りあっている。検出面の礫の残存状況はまばらで、礫の取り外し後に廃棄された集石遺構と考えられる。礫の分布は1.35m × 1.3m、掘り込みは1.3m × 1.1mである。埋土中から出土した炭化材の放射性炭素年代測定分析を行ったところ、8713 ± 34BPで、カエデ属という結果が出ている(第3章Ⅱ、試料3)



第6図 アカホヤ火山灰下位遺構配置図(S=1/600)



第7図 アカホヤ火山灰下位検出SI実測図①

SI5

A-9 グリッド付近にて 1.5m ほどの範囲に礫が広がったため、検出した。サブトレンチを設定したところ、掘り込みを確認した。2.2m × 1.4m、掘り込みは 1.3m × 0.9m である。

SI6

遺物包含層精査中に、礫が集中して出土していたため、精査したところ、検出した。掘り込みは検出面からは確認できない。礫の範囲は 0.8m × 0.55m、掘り込みの範囲は 0.65m × 0.6m である。深さは 0.12m で礫を含有する深さと殆ど重なり、浅い。埋土中から出土した炭化材の放射性炭素年代測定分析を行ったところ、7778 ± 31BP で、カヤの炭化材という結果が出ている（第3章Ⅱ、試料4）

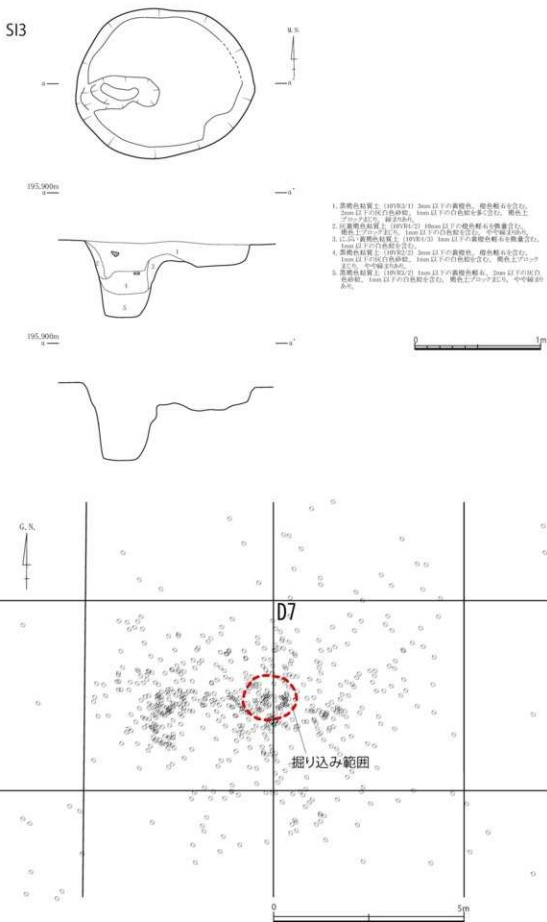
出土遺物は磨石 2 点で、1 は掘り込み内からの出土で敲打痕を持つ。2 は掘り込みの外から出土した。いずれも霧島山系花崗岩製である。

SI7

遺物包含層精査中に不定形の黒ずみがあることを確認し、サブトレンチを掘削したところ、下層より礫が密集して出土した。遺構検出面の上層では 5m 程の範囲で礫が多く出土しており、遺構検出面の礫の残存は少ない。遺構底面付近から礫が多く出土している状況から、廃棄後の集石であると考えられる。礫の範囲は 1.6m × 1.4m で、2.05m × 1.75m の掘り込みを持つ。埋土は上層が黒褐色を呈する。下層は黒色を呈し、炭化物を多く含んでいた。埋土中から出土した炭化材の放射性炭素年代測定分析を行ったところ、8809 ± 31BP で、クヌギ節の炭化材という結果が出ている（第3章Ⅱ、試料5）。

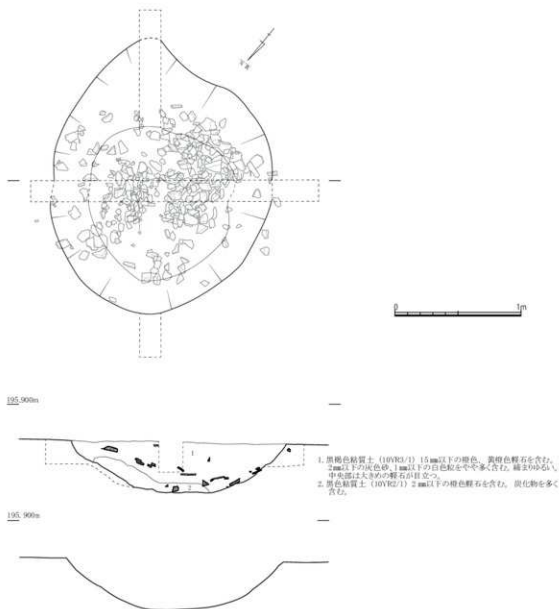
SI8

SI4 調査中にサブトレンチを掘削したところ、切り合いの集石遺構であることが判明した。SI4 に先行する。礫の検出状況から、廃棄後の集石遺構と思われる。掘り込みは 0.8m × 0.6m である。



第8図 アカホヤ火山灰下位検出SI実測図②

S17



第11図 アカホヤ火山灰下位検出SI実測図③

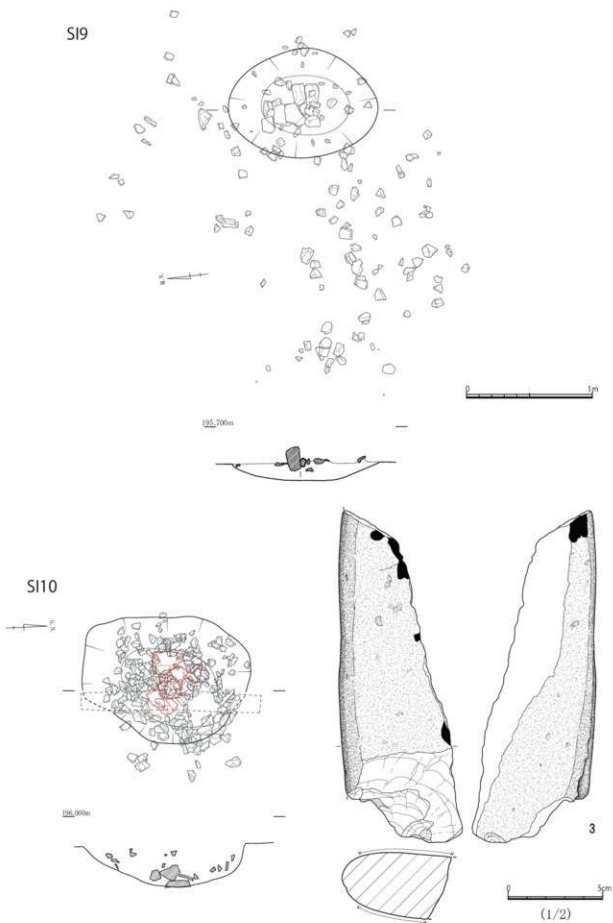
S19

遺物包含層精査中に、10m程の範囲で礫の散布が見受けられたため、精査し検出した。掘り込み中の礫の量は少ないが、散布した礫より大きい礫が残存していた。掘り込みは1.0m × 0.85mと平面形は楕円形を呈し、掘り込み中からは少量の炭化物を採取した。

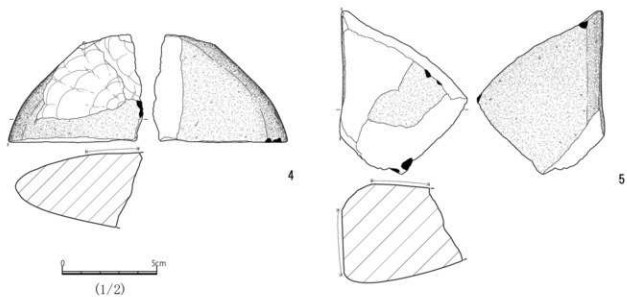
S110

調査区南の先行トレンチ掘削時に周囲から礫が多く出土しており、周辺を精査したところ検出した。検出面にやや炭化物を含む。礫の分布範囲は1.0m × 1.0mで、掘り込みは1.3m × 1.1mである。配石を持つ。集石内より、石皿の転用と思われる破片が出土した(3~5)。

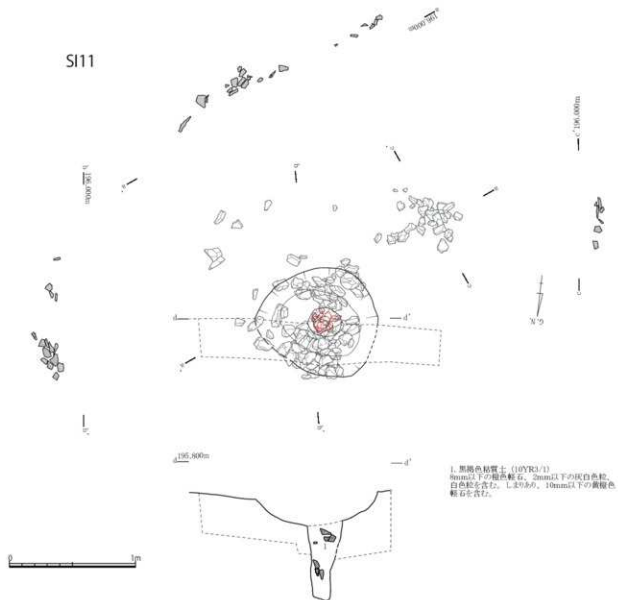
S111



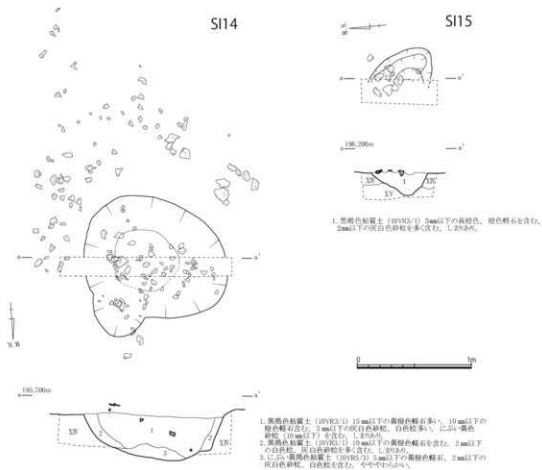
第12図 アカホヤ火山灰下位検出SI実測図⑥



SI11



第13図 アカホヤ火山灰下位検出SI実測図⑦



第15図 アカホヤ火山灰下位検出SI実測図⑨

SI14

調査区南側の先行トレンチ掘削時に礫が多く出土し精査したところ、集石遺構の掘り込みを検出した。掘り込みは不明瞭である。3.0m × 2.0mの範囲に特に礫のまとまりが確認できた。掘り込みは1.2m × 1.0mである。

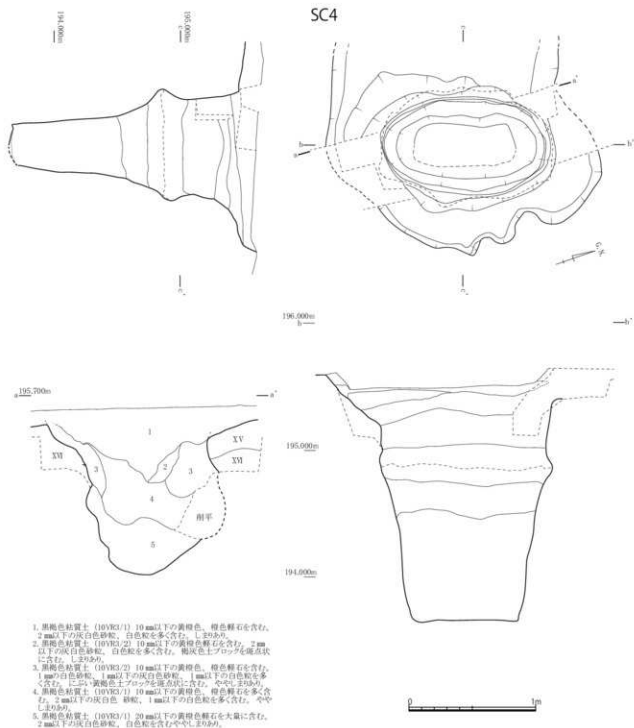
SI15

土層ベルトを掘削中、礫の密集が確認できたことで検出した。周囲の掘り下げが完了していたため、礫の残存は悪いが、サブトレンチ掘削したところ、断面で掘り込みを確認した。掘り込みの残存規模は0.5m × 0.3mである。

2 土坑

SC4

調査区南側の先行トレンチ掘削時に検出した。遺構際から20cmほどは緩やかに傾斜する。長軸2.0m、短軸1.4mで平面形は楕円形であり、検出面からの深さは2.0mである。遺構の中央付近は柔らかい埋土だが、軽石が増える壁付近は硬い土質になる。底面を精査したが、逆茂木は確認されなかった。陥し穴状遺構と考えられる。



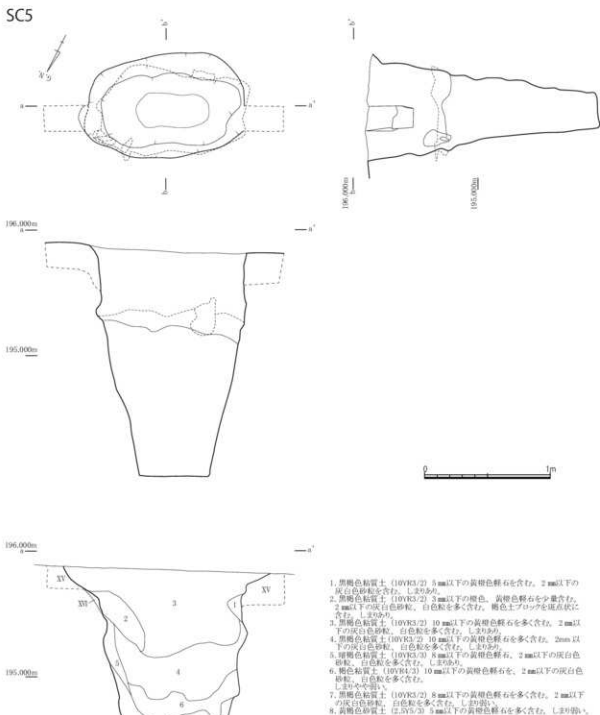
第 16 図 アカホヤ火山灰下位検出 SC 実測図①

SC5

遺物包含層掘削後、精査したところ検出した。サブトレンチを設定したところ、埋土が確認できたため、半截を行った。規模は長軸 1.24m、短軸 0.82m の楕円形で、検出面からの深さは 1.82m を測る。長軸側の壁面に凹みを持つ。逆茂木は確認されなかった。形状から陥し穴状遺構と考えられる。

SC6

遺物包含層掘削中、検出した。サブトレンチを掘削したところ、一部分がピット状に落ち込んでいたため、平面プランを測量後、裁ち割って調査を行った。平面プランは楕円形で、規模は 0.8m × 0.7m で、掘り込



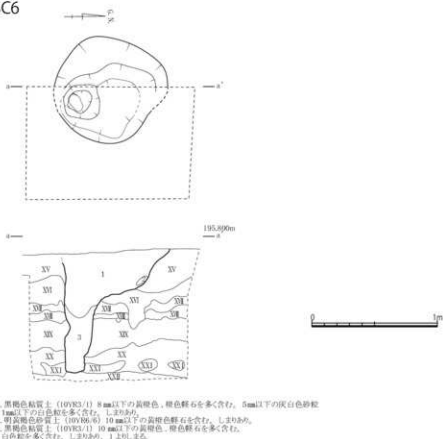
第17図 アカホヤ火山灰下位検出SC実測図②

みは最大深0.9mでハイヒール状土坑と考えられる。

SC7

遺物包含層精査中に検出した。平面プランは楕円形で、長軸1.9m、短軸は1.3mである。検出面からの深さは2.1mを測る。埋土の下層は小林軽石下層の壁が崩落して埋没したと思われる。埋土中に灰色の紐状

SC6



第18図 アカホヤ火山灰下位検出SC実測図③

物質を確認したため、成分分析（植物珪酸体分析、灰像分析）を行ったが、給源に関する情報は得られなかった（第3章V、試料9）。形状から陥し穴状遺構と考えられる。

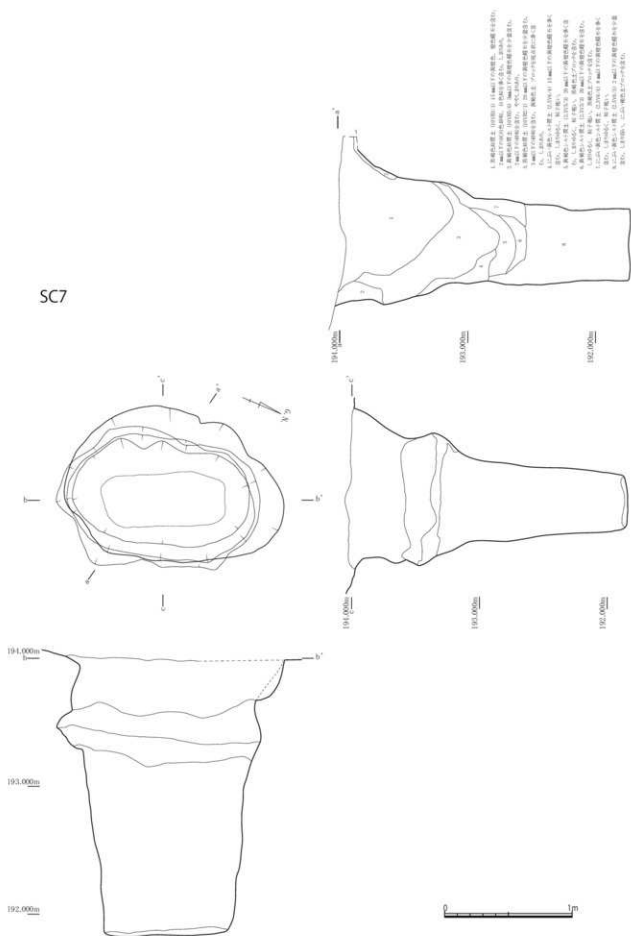
3 ビット

P11はD-4グリッドに位置する。遺物包含層精査後に検出した。径0.6m、深さ0.4mを測る。

P12からP17はE-5グリッドに位置する。遺物包含層精査後に検出し、裁ち割りによる調査を実施した。P12は径0.23m、深さ0.42mを測る。P13は径0.12m、深さ0.22mを測る。P14は径0.25m、深さ0.22mである。P15は径0.28m、深さ0.32mを測る。P16は径0.17m、深さ0.38mを測る。P17は径0.25m、深さ0.30mを測る。

P18はE-6グリッドに位置する。遺物包含層精査後に検出した。径0.3m、深さ0.45mである。

SC7



1. 調査地質図: 191000m 以上 192000m 以下地層、地層構造不明。
 2. 調査地質図: 192000m 以上 193000m 以下地層、地層構造不明。
 3. 調査地質図: 193000m 以上 194000m 以下地層、地層構造不明。
 4. 調査地質図: 194000m 以上 195000m 以下地層、地層構造不明。
 5. 調査地質図: 195000m 以上 196000m 以下地層、地層構造不明。
 6. 調査地質図: 196000m 以上 197000m 以下地層、地層構造不明。
 7. 調査地質図: 197000m 以上 198000m 以下地層、地層構造不明。
 8. 調査地質図: 198000m 以上 199000m 以下地層、地層構造不明。
 9. 調査地質図: 199000m 以上 200000m 以下地層、地層構造不明。
 10. 調査地質図: 200000m 以上 201000m 以下地層、地層構造不明。
 11. 調査地質図: 201000m 以上 202000m 以下地層、地層構造不明。
 12. 調査地質図: 202000m 以上 203000m 以下地層、地層構造不明。
 13. 調査地質図: 203000m 以上 204000m 以下地層、地層構造不明。
 14. 調査地質図: 204000m 以上 205000m 以下地層、地層構造不明。
 15. 調査地質図: 205000m 以上 206000m 以下地層、地層構造不明。
 16. 調査地質図: 206000m 以上 207000m 以下地層、地層構造不明。
 17. 調査地質図: 207000m 以上 208000m 以下地層、地層構造不明。
 18. 調査地質図: 208000m 以上 209000m 以下地層、地層構造不明。
 19. 調査地質図: 209000m 以上 210000m 以下地層、地層構造不明。
 20. 調査地質図: 210000m 以上 211000m 以下地層、地層構造不明。

第 19 図 アカホヤ火山灰下位検出 SC 実測図④

第3節 遺物について

遺物の出土範囲は北から南西に延びる尾根沿いに集中しており、尾根から離れて斜面の傾斜が強くなると遺物の出土がなくなる。全面を通じて、遺物出土地点はまばらだが、土器の型式や剥片の石材によって出土分布が偏っていた。出土している土器は、当地域の土器型式の、前平式、下刺峰式、桑ノ丸式、別府原式、塞ノ神式が出土している。下刺峰式は調査区内の頂部からやや北に下る傾斜地、桑ノ丸式は調査区頂部から南に下る傾斜地、塞ノ神式土器は調査区北側の尾根付近に分布していた(第21図)。石器についてはチャート、黒曜石製の剥片・石鏃が出土した。黒曜石は調査区北半、チャートは調査区南半から多く出土した。

1 出土土器について

前平式土器(6)

円筒形の器形で、胴部に貝殻条痕を施し、その上から沈線を施文する。志風頭段階に相当すると思われる。

下刺峰式土器(7)

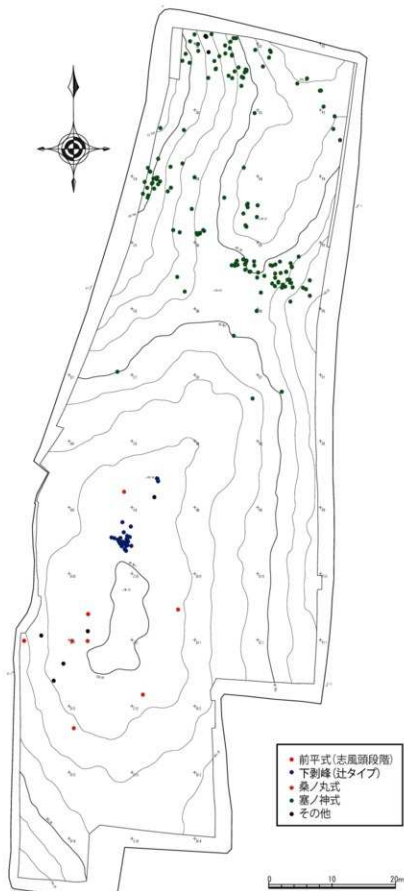
口縁部が内湾もしくは直立するバケツ状の器形で、器面に羽状の短沈線文と横位の刺突文を施す。辻タイプに相当すると思われる。

桑ノ丸式土器(8・9)

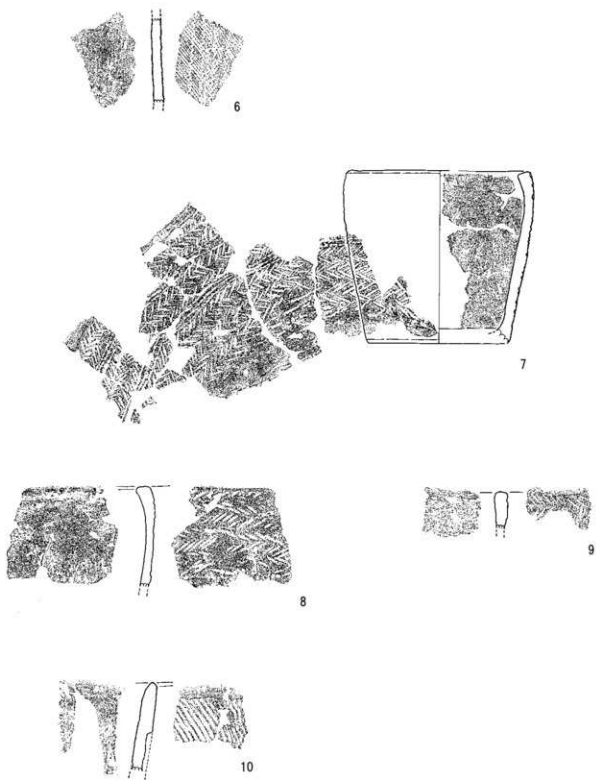
口縁部が内湾もしくは直立するバケツ状の器形を呈し、沈線による羽状文を持つ一群である。8は内湾する口縁部、9は直立する口縁部を持つ。

別府原式土器(10)

器面に斜位の貝殻条痕を施す。口唇部は横方向にナデを行っている。



第21図 アカホヤ火山灰下位出土土器分布図(S=1/600)

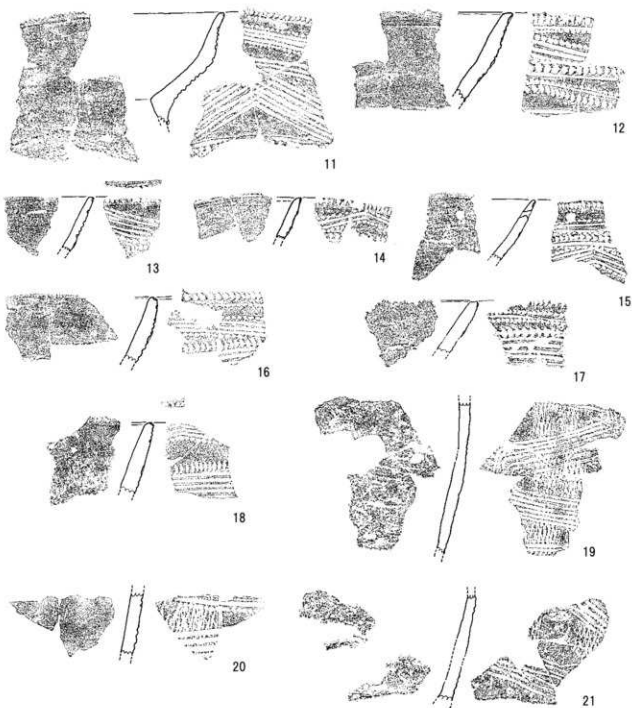


第22図 アカホヤ火山灰下位出土土器実測図① (S-1/3)

壺ノ神式土器 (11～39)

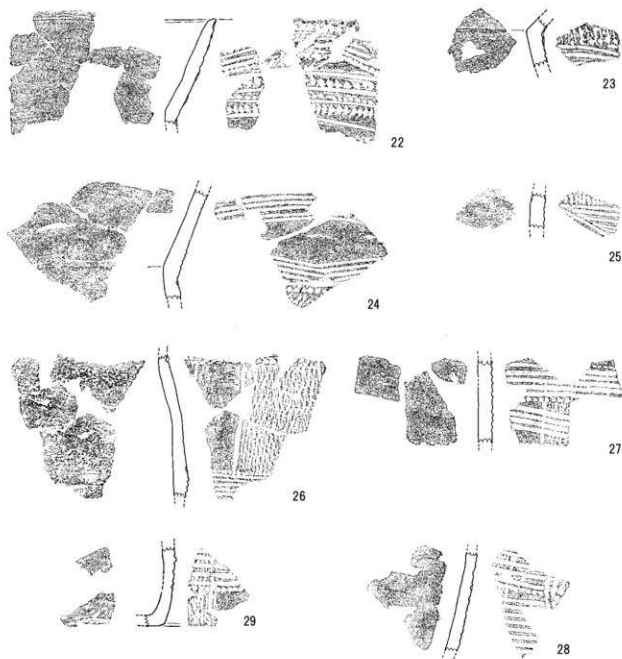
頸部が屈曲するラッパ状の器形を呈する一群である。

11は二重口縁を呈し、刺突と沈線による施文を施す。口唇部にはキザミを有し、口縁上部の内面は丁寧なナデ調整を施す。12・13は外面に沈線を施し、その上下に刺突を持つ。内面は丁寧なヨコナデを施し、口唇部は平らにナデ調整を施す。14は外面に沈線を施し、その上下に竹状工具で刺突を施す。口縁端部は



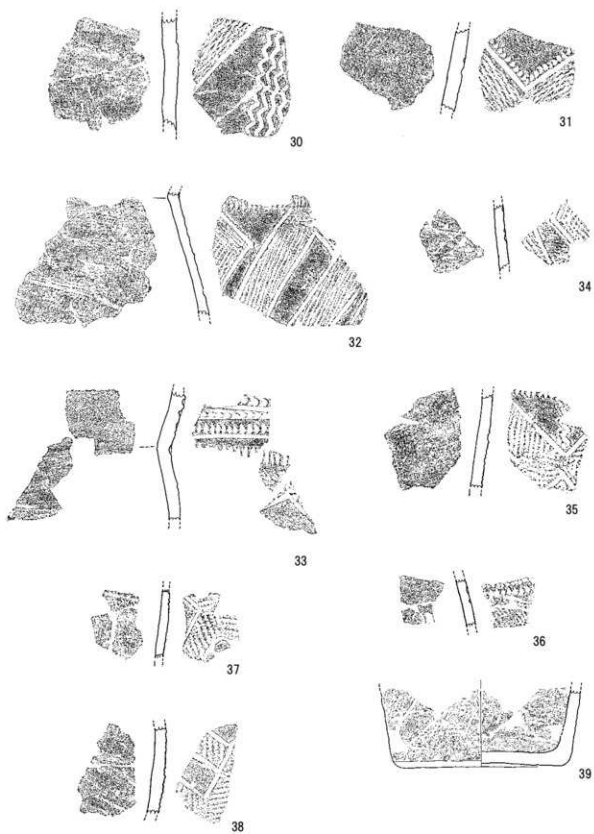
第23図 アカホヤ火山灰下位出土土器実測図② (S-1/3)

ヘラ状工具で刺突する。15は沈線を施した後、竹状工具で刺突を施している。口縁上部付近に穿孔を持つ。16は沈線と刺突を持ち、内面は丁寧なナデ調整を施す。外面が黒変する。17は下半に貝殻刺突文を巡らせる。18は口縁端部に丁寧なナデを施す。外面は口縁端部にキザミを施し、その下に沈線と刺突を施す。19は胴部片で、縦位に摺糸文を施し、その上から貝殻条痕を施す。20は縦位に摺糸文を施し、その後沈線と刺突を施す。21は底部付近の破片で、縦位の摺糸文後、斜位の貝殻条痕文を施文する。22は沈線を施し、その間を竹状工具とヘラ状工具による刺突文を交互に巡らせる。外面に少量のススが付着する。内面は丁寧なヨコナデを施す。23は頸部片で、屈曲部にヘラ状工具による刺突を持ち、沈線と刺突で胴部に施文する。24

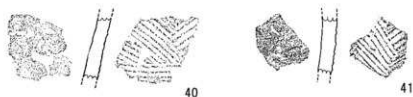


第24図 アカホヤ火山灰下位出土土器実測図③ (S=1/3)

も頸部片で、頸部から上部は沈線により施文する。下部は竹状工具による刺突文と燃糸文を有する。25はヘラ状工具による刺突と沈線を有する。26は胴部片で、縦位の燃糸文を沈線で区画し、横位に竹状工具での刺突と沈線を施す。27は縦位の燃糸文を沈線で区画し、横位と斜位に沈線を施す。28は胴部片で沈線で区画した燃糸文の上から沈線と刺突全面に施す。29は底部片で、縦位の燃糸文・沈線と横位の沈線・刺突文を持つ。内面は黒変している。30は沈線区画内の燃糸文と、波状沈線を有する。31は燃糸文を沈線で区画し、区画の外側に棒状工具で施文する。32は頸～胴部片で、頸部にヘラ状工具で刺突を施し、胴部は沈線区画内に燃糸文を施す。33も頸～胴部片で、頸部から上部は沈線と、ヘラ状及び竹状工具での刺突文を施す。下位部から下部は沈線と縄文を有する。34は胴部片で、沈線区画と燃糸文を持つ。35は胴部片で縦位に波状沈線を施し、その後沈線区画内に縄文を施文する。36は刺突を横方向に施文し、その下部に沈線と縄文を有する。37・38は胴部片で沈線区画と縄文を有する。39は底部片で沈線と縄文で施文する。底径は132mmである。



第 25 図 アカホヤ火山灰下位出土土器実測図④ (S=1/3)



第26図 アカホヤ火山灰下位出土土器実測図⑤ (S=1/3)

その他の土器 (40・41)

40・41 は条痕文を持つ土器である。斜め上方向から下方向に条痕を施した後、逆斜め上からも条痕を施す。

2 出土石器について

打製石鏃 (42～60)

42～53 は 1 類で、抉りが深く、特徴的な脚部を有する一群である。42～44、49、52 はチャート製である。45 は安山岩製、46～48、50、51 は黒曜石製である。

54 は 2 類で、胴下半部に最大幅を持ち、基部の幅が狭くなる平面形を持つ。黒曜石製である。

55 は 3 群で平面形が五角形を呈する。チャート製である。

56、57 は 4 群で基部に一定の抉りを持つ一群である。黒曜石製である。

58 は 5 類で、剥片の面を残す一群である。

59、60 は分類不可の石鏃である。

石鏃未製品 (61～66)

61 は黒曜石製、62～66 はチャート製の石鏃未製品である。

スクレイパー (67)

67 はチャート製でスクレイパーである。

二次加工剥片 (68～70)

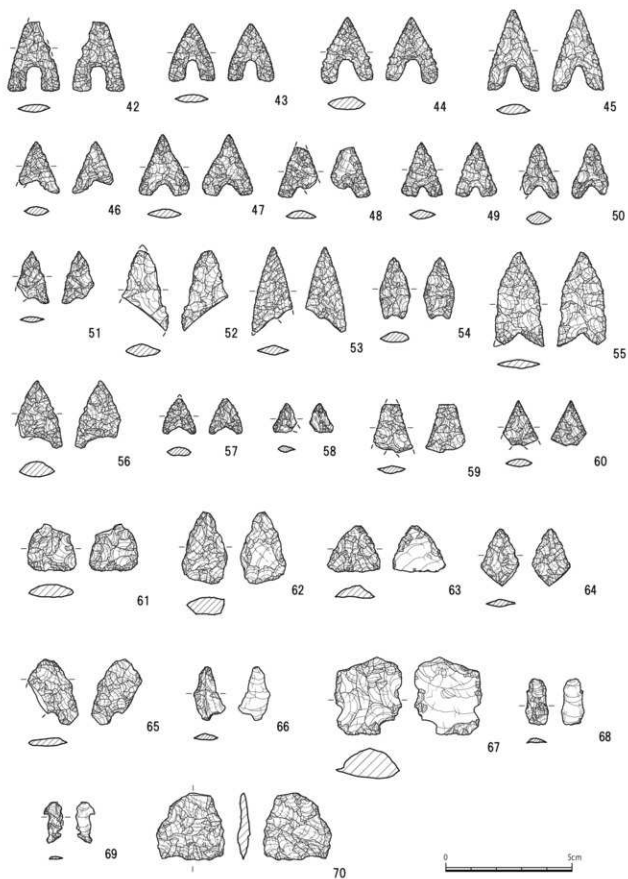
68、69 は黒曜石製、70 はチャート製の二次加工剥片である。68 は細石刃の可能性はある。

磨石 (71～77)

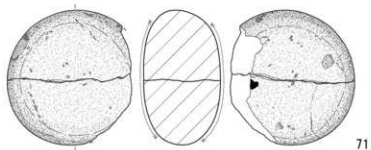
71、73 は霧島山系花崗岩製、72、74～77 は砂岩製である。73 は敲打痕を持つ。

凹み石 (78)

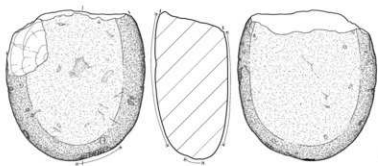
78 は砂岩製で、中心部に凹みを持つ。



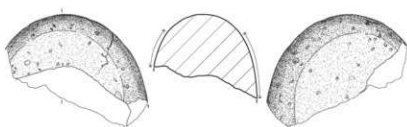
第 27 図 アカホヤ火山灰下位出土石器実測図① (S=2/3)



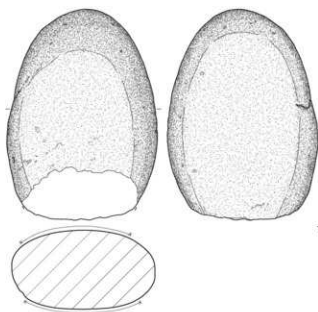
71



72



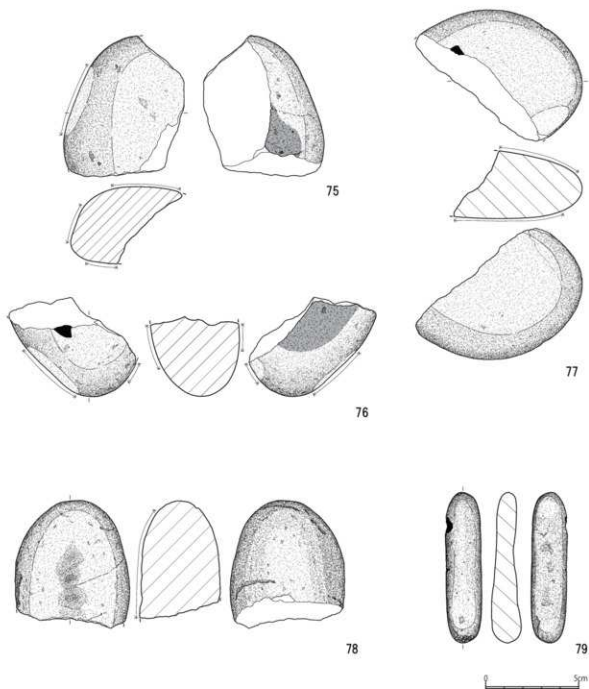
73



74



第 28 図 アカホヤ火山灰下位出土石器実測図② (S=1/2)



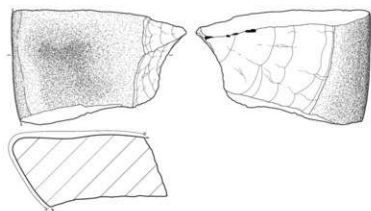
第29図 アカホヤ火山灰下位出土石器実測図③ (S=1/2)

敲石 (79)

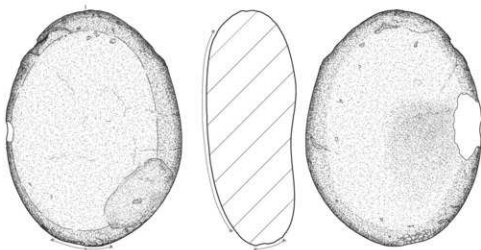
砂岩製の敲石で先端部に敲打痕を持つ。

石皿 (80～82)

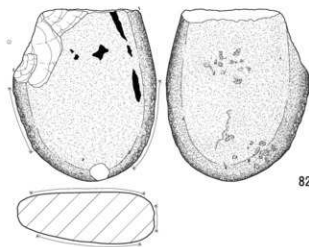
79～81は砂岩製の石皿で、80、81は敲打痕を持つ。



80



81



82



第 30 図 アカホヤ火山灰下位出土石器実測図④ (S=1/2)

第2表 アカホヤ火山灰下位包含層出土土器観察表

調査番号	器種	部位	出土地点	出土層位	法 量			色 調		土 質										文様及び調整		備考	実測No.
					器高(mm)	口径(mm)	口厚(mm)	外面	内面	石 灰	長 石	白 色 礫	黒 色 礫	赤 色 礫	黒 色 片	赤 色 片	黒 色 砂	赤 色 砂	黒 色 泥	赤 色 泥	外 面		
6	深鉢	胴部	A11	XV	67	—	—	明赤褐色 2.5YR 5/6	にぶい・暗 7.5YR 6/4	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	貝殻刺突 貝殻条痕	ナデ	19	
7	深鉢	口縁部～底部	B9	XV	136	—	140	にぶい・暗 7.5YR 5/4	にぶい・暗 7.5YR 5/4	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	引状文 知夜羅文 ナデ	ナデ	35	
8	深鉢	口縁部～胴部	B11	XV	80	—	—	にぶい・暗 10YR 5/3	にぶい・暗 7.5YR 4/4	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	引状文 刺突文	ナデ	15	
9	深鉢	口縁部	C10	XV	30	—	—	灰黄褐色 10YR 4/2	暗 7.5YR 4/4	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	引状文	ナデ	17	
10	深鉢	口縁部	A11	XV	71	—	—	にぶい・暗 5YR 5/3	にぶい・赤褐色 5YR 5/4	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	条痕文	ナデ	20	
11	深鉢	口縁部～底部	D5 E5	XV	87	—	—	にぶい・暗 7.5YR 5/4	にぶい・暗 7.5YR 5/4	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	引状文 列点 注線 貝殻条痕	ナデ	1	
12	深鉢	口縁部	C5 E5	XV	70	—	—	にぶい・暗 7.5YR 7/4	にぶい・暗 7.5YR 7/4	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	刺突 注線	ナデ	24	
13	深鉢	口縁部	E5	XV	40	—	—	にぶい・暗 7.5YR 5/3	暗 5YR 4/1	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	刺突 刺突 注線 漆点	ナデ	波状口縁	25
14	深鉢	口縁部	C4 D2	XV	34	—	—	にぶい・暗 7.5YR 5/4	にぶい・暗 7.5YR 6/4	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	引状 刺突 注線	ナデ	波状口縁	2
15	深鉢	口縁部	D4	XV	49	—	—	明赤褐色 5YR 5/6	明赤褐色 5YR 5/6	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	引状文 列点 注線 刺突	ナデ	穿孔有	16
16	深鉢	口縁部	C3 C4	XV	54	—	—	にぶい・黄褐色 10YR 7/3	にぶい・黄褐色 10YR 7/4	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	引状 刺突 注線	ナデ	4	
17	深鉢	口縁部	D1	XV	39	—	—	にぶい・黄褐色 10YR 6/3	にぶい・黄褐色 10YR 6/4	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	刺突 ナデ 注線 条痕 漆点	ナデ	18	
18	深鉢	口縁部	E5	XV	56	—	—	暗 5YR 5/1	灰黄褐色 10YR 6/2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	引状 漆点 注線 刺突	ナデ	11	
19	深鉢	胴部	C4	XV	121	—	—	にぶい・暗 7.5YR 5/4	にぶい・暗 10YR 5/3	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	条痕文 条痕	ナデ	22	
20	深鉢	胴部	D2 C2	XV	50	—	—	にぶい・暗 5YR 6/4	にぶい・暗 5YR 6/3	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	刺突 注線 条痕文	ナデ	6	
21	深鉢	胴部	C4	XV	85	—	—	にぶい・暗 7.5YR 6/4	にぶい・暗 7.5YR 6/4	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	条痕文 条痕文	ナデ	28	
22	深鉢	口縁部	D4 E5 D5	XV	85	—	—	にぶい・暗 7.5YR 6/4	にぶい・暗 7.5YR 6/4	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	注線 列点	ナデ	数量スズ付着	26
23	深鉢	胴部	B6	XV	40	—	—	にぶい・暗 7.5YR 5/4	にぶい・暗 7.5YR 5/4	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	刺突 条痕	ナデ	12	
24	深鉢	口縁部～底部	E5 C4	XV	89	—	—	にぶい・黄褐色 10YR 6/3	にぶい・黄褐色 10YR 5/3	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	注線 条痕文 ナデ 刺突	ナデ	10	
25	深鉢	胴部	E5	XV	31	—	—	灰黄褐色 10YR 5/2	にぶい・黄褐色 10YR 6/3	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	刺突 注線 条痕	ナデ	29	
26	深鉢	胴部	E5 D6	XV	114	—	—	にぶい・暗 7.5YR 5/4	にぶい・暗 7.5YR 5/4	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	刺突 条痕文 注線 漆点 (刺突) 条痕文	ナデ	23	
27	深鉢	胴部	C4 E5	XV	65	—	—	にぶい・暗 7.5YR 6/4	にぶい・暗 7.5YR 6/3	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	条痕 条痕 刺突	ナデ	33	
28	深鉢	胴部	D2 D2	XV	79	—	—	にぶい・暗 7.5YR 6/4	暗 7.5YR 5/2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	刺突 注線	ナデ	内面黒変、外面石に炭状に注線あり	3
29	深鉢	胴部～底部	C2	XV	62	—	—	にぶい・暗 7.5YR 7/4	暗 7.5YR 4/1	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	条痕文 注線 刺突	ナデ	条痕文条痕文後の刺突	30
30	深鉢	胴部	D4	XV	90	—	—	にぶい・黄褐色 10YR 6/4	にぶい・暗 7.5YR 6/4	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	注線 条痕文	ナデ	流紋に注線(内面石上)	7
31	深鉢	胴部	D1	XV	66	—	—	にぶい・暗 7.5YR 7/4	にぶい・暗 7.5YR 7/4	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	ナデ 刺突 注線 条痕	ナデ	半月状工具による刺突	5
32	深鉢	胴部～胴部	D2	XV	95	—	—	にぶい・暗 7.5YR 4/1	にぶい・暗 2.5YR 4/4	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	刺突 注線 条痕	ナデ	胴部部分黒変 数量スズ付着	37
33	深鉢	胴部～胴部	E5	XV	103	—	—	にぶい・暗 7.5YR 6/4	暗 7.5YR 6/6	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	刺突 注線 縄文 ナデ	ナデ		31
34	深鉢	胴部	D4	XV	48	—	—	にぶい・暗 5YR 6/4	にぶい・暗 5YR 6/4	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	条痕 注線	ナデ		34
35	深鉢	胴部	E5	XV	75	—	—	にぶい・暗 7.5YR 5/4	にぶい・暗 7.5YR 6/4	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	刺突 注線 縄文 ナデ	ナデ		32
36	深鉢	胴部	E5	XV	44	—	—	暗 7.5YR 6/6	にぶい・暗 7.5YR 6/4	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	刺突 注線 縄文	ナデ		14
37	深鉢	胴部	D5	XV	55	—	—	にぶい・暗 7.5YR 4/1	にぶい・暗 10YR 5/3	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	縄文 注線	ナデ		21
38	深鉢	胴部	E5	XV	68	—	—	にぶい・暗 7.5YR 5/4	暗 7.5YR 6/6	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	ナデ 注線 縄文	ナデ		27
39	深鉢	胴部～底部	D4 D5	XV	59	132	—	暗 5YR 6/6	暗 5YR 6/6	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	条痕 注線	ナデ	内面黒変	36
40	深鉢	胴部	D2	XV	49	—	—	にぶい・暗 5YR 5/4	にぶい・暗 5YR 5/4	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	条痕	ナデ	内面黒変	13
41	深鉢	胴部	D2	XV	45	—	—	暗 7.5YR 6/6	暗 5YR 6/6	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	条痕文 注線	ナデ		8

第3表 アカホヤ火山灰下位包含層出土石器観察表

採取番号	出土地点	種別	石材	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	備考	委託 No.
42	-	石鏃	チャート	2.75	2.05	0.35	1.5		1-19
43	-	石鏃	チャート	2.25	1.8	0.3	1		1-21
44	-	石鏃	チャート	2.65	2.05	0.5	1.6		1-24
45	-	石鏃	火山岩	3.2	2.05	0.4	1.8		1-38
46	-	石鏃	聖島産黒曜石	2.05	1.6	0.4	0.7		1-35
47	-	石鏃	針尾産黒曜石?	2.4	2	0.35	1.3		1-26
48	-	石鏃	黒曜石	2	1.55	0.35	0.9		1-16
49	-	石鏃	チャート	2.15	1.65	0.4	1		1-33
50	-	石鏃	針尾産黒曜石?	2.15	1.45	0.55	1		1-32
51	-	石鏃	黒曜石	2.05	1.25	0.25	0.4		1-36
52	-	石鏃	チャート	3.2	1.85	0.5	1.7		1-23
53	-	石鏃	チャート	3.35	1.6	0.45	1.7		2-1
54	-	石鏃	黒曜石	2.4	1.2	0.4	1		1-22
55	-	石鏃	チャート	3.75	1.95	0.4	2.3		1-31
56	-	石鏃	黒曜石	2.7	1.8	0.7	2.3		1-34
57	サブトレ内南側	石鏃	黒曜石	1.4	1.3	0.35	0.4		1-7
58	-	石鏃	黒曜石	1.15	0.95	0.3	0.2		1-17
59	-	石鏃	チャート	1.9	1.55	0.35	0.9		1-18
60	-	石鏃	針尾産黒曜石?	1.8	1.4	0.3	0.6		1-27
61	-	石鏃未製品	黒曜石	1.85	1.9	0.6	1.9		1-29
62	-	石鏃未製品	チャート	2.85	1.8	0.75	3.5		2-3
63	-	石鏃未製品	チャート	1.85	2.1	0.5	1.4		1-20
64	-	石鏃未製品	チャート	2.25	1.5	0.35	1		2-2
65	-	石鏃未製品	チャート	2.6	2	0.5	1.9		1-30
66	-	石鏃未製品	チャート	2.1	1.25	0.25	0.5		1-28
67	-	スクレーパー	チャート	3.1	2.65	1.3	10.6		1-25
68	-	細石刃?	黒曜石	1.85	0.9	0.35	0.2		1-37
69	-	二次加工剥片	黒曜石	1.6	0.75	0.2	0.1		2-5
70	-	二次加工剥片	チャート	2.65	2.7	0.55	3.4		2-4
71	-	磨石	霧島山所花崗岩	7.15	6.6	4.1	280.3		1-39
72	-	磨石	砂岩	8	7.35	3.8	331.2	磨打痕あり	1-12
73	-	磨石	霧島山所花崗岩	5.95	7.45	5.5	230.9		1-11
74	-	磨石	砂岩	11.2	8	4.2	513.9		1-10
75	-	磨石	砂岩	7.55	6.5	4.7	197.1	76と接合	2-7
76	-	磨石	砂岩	5.35	6.85	5.00	151.2	221と接合、被熱痕あり	2-6
77	-	磨石	砂岩	8.95	7.05	3.7	222.5	75と接合	2-8
78	-	凹み石	砂岩	6.85	6.15	4.35	225.3	表面に凹みあり、被熱痕あり	2-9
79	-	敲石	砂岩	8.1	1.95	1.6	32.3		1-13
80	-	石鏃	砂岩	5.35	6.85	5	151.2		1-6
81	-	石鏃	砂岩	12.5	9.3	4.9	742.2	磨打痕あり、全体的に被熱痕強い	1-14
82	-	石鏃	砂岩	9.15	7.6	2.9	280.6	磨打痕あり	1-15

第3章 アカホヤ火山灰上位の調査

第1節 遺物、遺構の分布状況

基本層序Ⅲ～Ⅴ層がアカホヤ火山灰上での遺物包含層であるが、殆どが造成による削平で残存しておらず、残存していた部分も耕作時のトラクタによる攪乱を受けている状態であった。そのためⅢ～Ⅴ層については重機で慎重に除去し、遺物数点を採集した。包含層除去後、基本層序Ⅵ層上面にて遺構検出を行った。遺構は土坑3基とピット1基を検出した。ピット1基から刻目突帯を持つ土器が1点出土した。

第2節 遺構について

1 土坑

SC 1

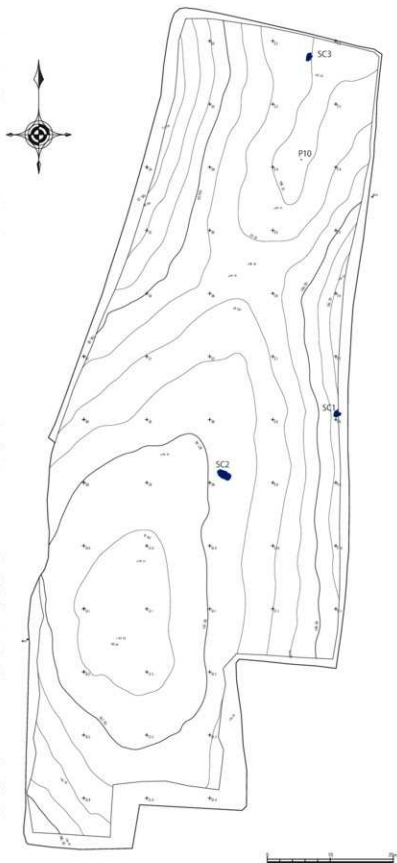
調査区東壁にかかって検出された。1.2m × 1.05mの不定形で、北東側は斜めに落ち込んでいた。遺構南側は攪乱の影響を受けていた。埋土に褐色スコリアを含む層が確認された。

SC 2

規模は2.5m × 1.3mで、平面プランが楕円形の土坑である。埋土中から礫数点出土した。埋土や底面付近の様子から、樹根による攪乱を受けていると考えられる。埋土は1層で、黒褐色粘質土(10YR1/3)で2mm以下のふい黄褐色軽石を含む。

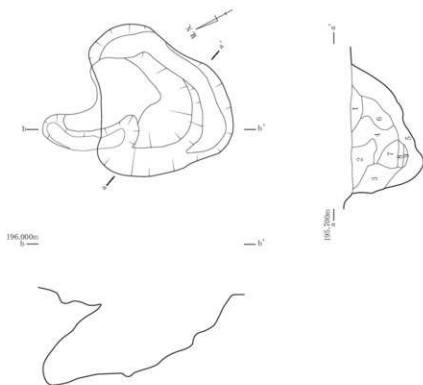
SC 3

幅1.5mの土坑である。東側はトラクタによる攪乱を受けており、残存で0.9mを測る。埋土は黒褐色粘質土(10YR1/3)で3mm以下の黄褐色軽石、灰黄褐色火山灰ブロックを含む。



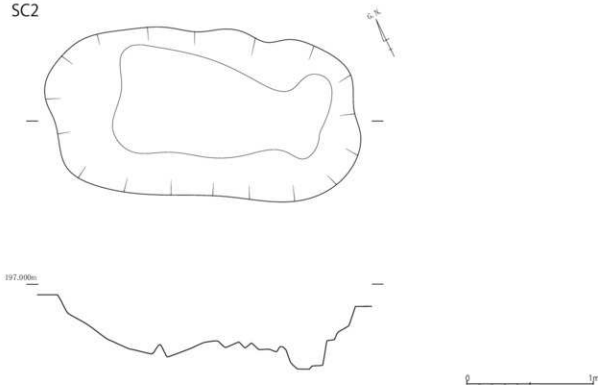
第31図 アカホヤ火山灰上位遺構配置図(S=1/600)

SC1



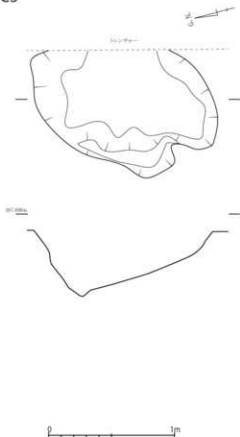
1. 黒褐色シルト質土 (10YR5/2) に多い黄褐色砂石 (3mm程度) を多数含む。
2. 黒色シルト質土 (10YR3/1) 1mm程度の褐色砂石、白色砂石を多数含む。
3. 黒褐色粘質土 (10YR3/2) 灰褐色火山灰アロップ (平均5mm程度) を含む。
4. 黒褐色シルト質土 (10YR5/2) 8mm以下の多い黄褐色砂石を多く含む。
5. 黒色シルト質土 (10YR3/1) 1mm以下の黄褐色砂石を多数含む。
6. 灰褐色シルト質土 (10YR5/2) 15mm以下に多い黄褐色砂石を多数含む。
7. 黒褐色シルト質土 (10YR3/2) 15mm以下に多い黄褐色砂石を多数含む。
8. 黒褐色シルト質土 (10YR3/1) 15mm以下に多い黄褐色砂石を多数含む。
9. 黒褐色シルト質土 (10YR3/2) 1mm以下の多い黄褐色砂石を含む。
10. 黒褐色シルト質土 (10YR3/1) 1mm以下の多い黄褐色砂石を含む。

SC2

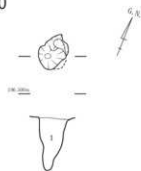


第 32 図 アカホヤ火山灰上位検出 SC 実測図① (S=1/30)

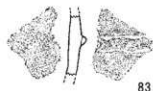
SC3



P10



1. 黒褐色シルト質土 (0.0V3/1)
 について黄褐色層 (1mm程度)、白色粒を含む。



83

第33図 アカホヤ火山灰上位検出SC実測図②及びP実測図(S=1/30)

2 ビット

P10

0.3m × 0.25mのビットである。埋土の中ほどから刻み目突帯付土器が出土した (83)。

第4表 アカホヤ火山灰上位包含層出土土器観察表

発掘年	西暦	部位	出土地点	出土層位	法 器			色 調		胎 土						文 様 及 び 調 整		備 考	実測No.		
					器高 (mm)	底径 (mm)	口径 (mm)	外 面	内 面	石 葉	長 石	白色鉱物	輝 石	角閃石	黒雲母	金雲母	黒色鉱物			赤色鉱物	外 面
83	豊 前 部	E3	V	-	-	-	にふいね 7.5YR 6/4	にふいね 7.5YR 7/3	○	○								ナデ	ナデ		38